

平成20年3月定例会会議録（第3号）

平成20年3月10日 月曜日 午前10時00分開議

佐々木 謙 二 議長 町 田 義 昭 副議長

出席議員（18名）

1番	竹 田 博 一	議員	2番	鈴 木 悟 司	議員
3番	我 妻 昇	議員	4番	大 道 寺 信	議員
5番	谷 口 栄 子	議員	6番	蒲 生 光 男	議員
7番	町 田 義 昭	議員	8番	安 部 隆	議員
9番	渋 谷 佐 輔	議員	10番	高 橋 孝 夫	議員
11番	大 沼 久	議員	12番	藤 原 民 夫	議員
13番	鈴 木 良 雄	議員	14番	小 関 勝 助	議員
15番	鈴 木 武 次	議員	16番	鈴 木 新 助	議員
17番	蒲 生 吉 夫	議員	18番	佐々木 謙 二	議員

欠席議員（0名）

説明のため出席した者

内 谷 重 治	市 長	新 野 潔	副 市 長
遠 藤 健 司	自立経営対策室長	平 進 介	総務課長兼選挙管 理委員会事務局長
松 本 弘	財 政 課 長	松 木 幸 嗣	企 画 調 整 課 長
中 井 晃	税 務 課 長	浅 野 敏 明	市 民 課 長
船 山 祐 子	健 康 課 長	平 英 一	福 祉 事 務 所 長
高 橋 信 夫	会計管理者兼会計課長	飯 澤 孝	消 防 主 幹
飯 田 武 志	監 査 委 員	田 中 勝 男	教 育 委 員 長
大 滝 昌 利	教 育 長	遠 藤 誠 一	選 挙 管 理 委 員 会 委 員 長
小 関 秀 一	農 業 委 員 会 会 長	遠 藤 正 明	農 林 課 長
齋 藤 理 喜 夫	商 工 観 光 課 長	鈴 木 一 則	建 設 課 長
鈴 木 義 一	管 理 課 長	那 須 宗 一	文 化 生 涯 学 習 課 長
鈴 木 要 一 郎	農 業 委 員 会 事 務 局 長	渡 部 政 明	水 道 事 業 所 長
佐 藤 孝 博	学 校 給 食 共 同 調 理 場 長	沼 澤 厚 子	監 査 委 員 事 務 局 長

+

事務局職員出席者

佐藤 仁	議会事務局長	児玉 行宏	補	佐
五十嵐 恵美子	庶務係長	塚田 知広	主	任

議事日程（第3号）

平成20年3月10日 月曜日 午前10時00分開議

日程第 1 市政一般に関する質問

8番	安部 隆	議員
4番	大道寺 信	議員
10番	高橋 孝夫	議員
1番	竹田 博一	議員
3番	我妻 昇	議員

本日の会議に付した事件

議事日程（第3号）に同じ

+

+

+

開 議

○佐々木謙二議長 おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

本日の会議に欠席の通告議員はございません。よって、ただいまの出席議員は定足数に達しております。

本日の会議は、配付しております議事日程第3号をもって進めます。

日程第1 市政一般に関する質問

○佐々木謙二議長 日程第1、市政一般に関する質問を7日に引き続き行います。

これより個人質問を行います。

それでは順次ご指名いたします。

安部 隆議員の質問

○佐々木謙二議長 順位6番、議席番号8番、安部 隆議員。

(8番安部 隆議員登壇)

○8番 安部 隆議員 おはようございます。

今定例会に際し、通告に従い随時質問をいたしますので、簡潔明瞭な答弁をお願いいたします。

平成19年度を財政危機脱出元年と位置づけられ、内谷市政が運営を担ってきたものと思います。

19年度における予算編成においては、前市長の関与があり、内谷市長の編成とは言いがたい

年度であったと思います。そうした中で平成20年度、新年度の予算が示されました。新年度の予算は、内谷市長がすべてにわたり関与され、事業等を含め内谷市長の手腕を見せどころと言っても過言ではなく、市民各位においても新年度に対して希望、期待を抱いているものと思います。

私自身も期待を抱きながら施政方針を拝読いたしたところ依然として変わらぬ硬直した予算の中での予算編成は厳しい状況での前年度対比8,100万円、0.8%減の104億3,000万円規模の新年度予算規模であり、これまでも行財政改革を実行したにもかかわらず財政難の状況で期待を抱くというところではないと思うところであります。

このように現市政になったからということではなく、構造的な地方自治体の宿命、流れのように感じます。これまでも中期の行財政改革と称しながら人件費を含め義務的経費の削減、人員の適正化、借りかえによる繰り上げ償還による公債費の削減、市長、三役を始め職員、特別職の給与及び手当のカット、諸手当の見直し廃止や給食センターの調理部門や配送部門の民間委託、保育園の社協への委託、議会においては議員定数の削減等財政が厳しい当市は早くから他市町村に先駆け行財政改革を進め、一定の成果を上げながらもなかなか財政が好転せず、負の連鎖のごとく「金庫は空っぽの状況である」と市長は述べられています。このような状況での予算編成は、まさに長井市の構造的形態を物語っており、負からの脱却こそが市民の期待を注視するものであり、そのための施策が施政方針で示され、述べられていることに考慮し、理解をしなければならぬと感じたところでございます。

そうした施政方針では、「三助の精神に基づくまちづくり施策の推進」とあり、「景気、経済の再生こそが重要課題であり、そのためには

+